

- 2-3 厚木から羽ばたく熱気人 あつぎびと
- 4-5 新春対談
文化芸術を楽しむまちに
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」ネットは「マイ広報紙」



アーティスト
井上 純さん

シンガーソングライター
NakamuraEmiさん

思いを かたたちに

新しい年が始まり、2月1日に厚木市は市制70周年を迎えます。改めて私たちが暮らすまちのこゝを見つめる節目の年。二人の表現者が、生まれ育った厚木のこゝや未来を思い、絵と歌を作り上げました。

1月4日、改修を終えた文化会館が、いよいよリニューアルオープンの日を迎えます。市の文化芸術の拠点として多くの表現者を送り出していったこの場所で、アーティスト・井上純さんと、シンガーソングライター・NakamuraEmiさんが、ふるさと厚木で道草したり、遠回りしたりしながら過ごした日々、出会った人たち、遊び楽しむ大切さ、文化芸術の意義などを語り合いました。

《4・5面に関連記事あり》

プロフィール

ナカムラエミ
NakamuraEmiさん

1982年生まれ。依知小・中学校、厚木東高校出身。市内在住。2016年メジャーデビュー。アニメや企業の楽曲を制作。25年9月6日に文化会館でワンマンライブ開催。

井上 純さん

1981年生まれ。荻野小・中学校、厚木西高校出身。2010年ナイキ本社の壁画を制作。企業とのコラボレーションや海外での個展開催など国内外で活躍。



ポールダンサー
加藤 汐里 Kato Shiiori

「挑戦」が原動力

加藤さんがポールダンスに出合ったのは18歳の頃。語学留学したオーストラリアで見た大会がきっかけだった。「空中に浮き、体をいっばいに使う姿がかっこよかった。初めて目にしたポールダンスに魅了された加藤さんは、妊娠・出産を経験した後、20歳の時にスタジオに通い始めた。「育児や家事、仕事の忙しさなどいろいろな葛藤はあったけれど、挑戦する気持ちを持ち続けたい」と一歩踏み出した。ダンスは初心者で、指

天井から伸びる一本のポール。腕や脚を巻き付けるように宙に浮き、体の先まで神経を尖らせてしなやかに舞う。「筋力や柔軟性、バランスを一つにして表現する」。市内でスタジオを開き、生徒に教えながら競技に打ち込む加藤さんは、世界大会で優勝を果たしたポールダンサーだ。



プロフィール
1991年生まれ。市内でポールダンススタジオを営み、インストラクターとして活動。2024年4月にイタリアで開催されたポールダンスの国際大会「Soul on Pole」に出場。プロフェッショナルクラスのコンテンポラリー部門・アート部門で優勝した。

世界大会優勝のトロフィーを手にする加藤さん

導者もいない中、動画で手の位置や体の使い方などを研究し、子育てと両立しながら独学で技を身に付けていった。大会では、決められた時間内で演技し、技の難易度や美しさ、構成などを採点。ポールに登り音楽に合わせて踊ったり、回転したりと華麗な技が披露される。始めて5年目、韓国で開催された大会に初出場し優勝した加藤さん。「もっと多くの大会にチャレンジしたい」とスタジオに通う回数が増やしたが、翌年、レベルを上げて挑んだヨーロッパの大会で惨敗。海外選手の見たことのないオリジナルの技や表現方法、小道具を使った斬新な演技などを目の当たりにした。「自分との差が歴然だった」。加藤さんはスキルを身に付けるためコンテンポラリーダンスを新たに学ぶなど自身を見つめ直した。「表現力が自分の強み。海外の選手と比べて体が小さいので、曲調や歌詞に合った表現を

現在、小学生から大人まで約50人の生徒に囲まれ、指導にも力を注ぐ加藤さん。「ポールダンスは自分と向き合える大切な存在。母、インストラクター、選手としてかっこよくいるため、体力が続く限り、挑み続けたい」。加藤さんの歩みは止まらない。

ポールの摩擦による火傷や落下でのけがも経験する中、支えになったのは、生徒や家族の存在だ。「やめようと思ってもは何度もある。それでも生徒たちの「演技を見て感動した」「目標にしている」などの声が目になった」と話す加藤さん。12歳になる息子も野球に夢中で、一緒にトレーニングをしたり、試合前には「お互い頑張ろう」と励まし合い、支え合っている。努力が実を結び、昨年4月にイタリアで開催された世界大会では2部門で優勝。特に、自由な表現が評価されるコンテンポラリー部門は、力を入れて取り組んでいた。「苦手にしていた部門で評価されてうれしかった」と笑顔を見せる。

ポールの摩擦による火傷や落下でのけがも経験する中、支えになったのは、生徒や家族の存在だ。「やめようと思ってもは何度もある。それでも生徒たちの「演技を見て感動した」「目標にしている」などの声が目になった」と話す加藤さん。12歳になる息子も野球に夢中で、一緒にトレーニングをしたり、試合前には「お互い頑張ろう」と励まし合い、支え合っている。努力が実を結び、昨年4月にイタリアで開催された世界大会では2部門で優勝。特に、自由な表現が評価されるコンテンポラリー部門は、力を入れて取り組んでいた。「苦手にしていた部門で評価されてうれしかった」と笑顔を見せる。



力強さや繊細さを全身で表現

大切にしていく」と技に磨きをかけていった。

いつまでも前へ

厚木から羽ばたく

ATSUGIBITO

熱気人 SPORTS

夢に向かって歩み続ける「熱気人」たち。努力を重ね、ひたむきに競技に向き合う姿勢は、明るい未来へとつながっていく。

◎広報シティプロモーション課 ☎225-2040

ATSUGIBITO

バスケットボール選手
野口 龍太郎

Noguchi Ryutaro



「大好き」を胸に

力みのないフォームで放たれたボールはきれいな放物線を描き、リングへと吸い込まれていく。けがからの復帰に向けて、膝の状態を確認しながらシュートを打つのは野口龍太郎さん。プロ5年目の今季から、アイズフレンズ東京Zに所属するバスケットボール選手だ。

変わらない気持ちで

野口さんは小学3年生の時にバスケットボールを始め、卒業文集に「プロになりたい」と書くほどのめり込んだ。「中学生の頃、休日は朝からみんなで公園のコートでバスケットをしてから部活に行って、部活後も日が落ちてリングが見えなくなるまで遊んでいたと、夢中でボールを追いかける日々を送った。高校は、熊本県のバスケット

ボール強豪校に進んだ。「一番伸びたのは高校時代」と振り返る野口さん。慣れない環境や厳しい練習で、一時は体重が20kg近く落ちたが、両親や高校の恩師・仲間のサポートで、九州地区の選抜チームに選ばれるまでになった。部活だけでなく学業にも力を入れ、精神面も大きく成長。めきめきと力をつけていった。

大学では、プロを目指すチームメイトに囲まれ、2年生の頃から自然とプロを意識しながら練習に打ち込むようになった。しかし4年生の春、不慮の事故に遭い、頭部や腰などに大怪我を負った。緊急手術の後、医師からは「今までのようにはプレーできない」と告げられた。病室のベッドに横たわりながら、引退という言葉が頭をよぎった。1カ月後、野口さんは市内に

スポーツチームを応援しよう

厚木でのホストゲーム開催や、市を拠点に全国で活動するチームを紹介します。※写真は全てチーム提供

市内での試合情報は市HPIに掲載



バスケットボール
湘南ユナイテッドBC

男子プロバスケットボールリーグのB3に加盟。市と協定を締結し、昨年からは市内でホストゲームを開催。



ハンドボール
ブルーサクワ鹿児島

ハンドボールのリーグH(エイチ)に加盟。鹿児島県霧島市を拠点に、所属企業のグループ本社がある厚木でもホストゲームを開催。



サッカー
厚木はやぶさFC

Jリーグ加盟を目指し、関東リーグで活躍中。市と協定を締結し、普段は荻野運動公園で練習を重ねる。



ラグビー
クリタウォーターガッシュ島

NTTジャパンラグビーリーグワンに加盟し、ディビジョン3で活躍中。以前市内に練習場があった縁から、市内でもホストゲームを開催。



ソフトボール
あつぎSC

日本女子ソフトボールリーグに加盟。選手全員がさまざまな職に就きながら、飯山のグラウンドで練習を重ねる。



試合中はチームを鼓舞し続けた

野口さんは、プロ選手になった今も、市内の体育館や公園のコートで中学時代の仲間や出会った子どもたちと一緒にバスケットボールを楽しんでいる。「地元の人たちとバスケットするのが一番楽しい」と、昔と変わらない気持ちを大切にしている。11月、荻野運動公園の体育館でBリーグの試合が開催された。昨年8月に負った膝のけがの影響で、地元でのプレーはかなわなかったが、ベンチから大きな声を出し、チームを盛り上げた。会場には、両親や中学の先生、地元の友人が駆け付けてくれた。「地元でプレーを見せられる日まで続けたい。もっとうまくなりたい」と、悔しさをにじませた。「試合を見に来た子どもたちから、次の選手が出てくればうれしい。厚木の子どもの憧れの選手になれば」と話す野口さん。これからも大好きなバスケットボールに向き合い続けていく。

地元への思いと決意

なく、幸せなことだと気づかされた。支えてくれる人のためにプレーしたい」と心に決めた。



チームメイトの活躍に笑顔を見せる野口さん



シンガーソングライター
NakamuraEmiさん

アーティスト
井上 純さん



新春対談

文化芸術を 楽しむまちに

市では、市民の皆さんの文化芸術活動を応援するため、イベントの開催や施設整備など、「文化芸術の聖地づくり」に力を注いでいます。今回は、市内出身のアーティスト・井上純さんと、シンガーソングライター・NakamuraEmiさんを迎え、厚木の思い出や文化芸術の魅力などを語り合いました。

市長 新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。今回は、国内外で活躍されている井上純さんとNakamuraEmiさんをお招きし、話を伺いたいと思います。

緊張とワクワクの場所

市長 ここ文化会館は1月にリニューアルオープンします。文化会館での思い出はありますか。
井上 僕は父親の職場がここだったので、幼い頃からよく来ていました。小学生の時、自分の絵が友好都市の中国に行く作品に選ばれて、その展示会を地下で見た記憶もあります。ワクワクしながら来たんですけど、中国の同じ年の子の書がものすごく達筆で、びっくりしました。

ナカムラ 私は初めて人前に出る経験をしたピアノの発表会の会場がここで、本当に緊張しました。ダンスの発表会や読書感想文で入賞した時の表彰式もここで、うれしさと緊張する思いが入り交じっている場所です。

市長 私も中学生の頃、TUBEのコンサートを親と見に来たのを覚えています。工事期間中、井上さんは仮囲いに絵を描かれていましたね(右写真)。

井上 今は暮らしやすい世界になっていますが、反対に自然との距離が離れているんじゃないかなという疑問があります。仮囲いには山・川・海という普遍的な自然を描きました。改めて、みんなが自然に思いをはせることが必要なのではないかと。

市長 ナカムラさんは以前もこのステージに立たれ、今年もワンマンライブを開催されるそうですね。

ナカムラ 私の音楽活動に直結しているのが、厚木で育った言葉や、人との出会いです。今回のライブで、家族や友だち、いろいろな人にお礼を伝えたいです。そして初めて見てくれた方にも「ちよっと明日頑張ってみようかな」と思ってもらえたら、厚木への恩返しや、これからも頑張る意思表示ができるかなと思っています。

人と自然が近いまち
市長 厚木での経験が創作に生かされることはありますか。

ナカムラ 私はずっと厚木に住んでいます。仕事で全国を回って厚木を客観的に見て、ふるさとのことを話したような歌詞ができました。自然もあり、暮らしやすいこのまちで、子どもたちが失敗したり、怪我した



過去には市のイベントに出演



リニューアル工事中の仮囲いに描かれた作品

井上 実家の裏が山で、幼い頃は兄や近所の友達と川で釣りしたり、山に秘密基地を作ったり、自然に触れて育ちました。自然からのインスピレーションを大切に描いています。厚木で育ったからこそこういう作品になっているのかなと思います。

ナカムラ 私の家の近所も田んぼだらけで、山や川に囲まれて育ったことが今の自分を作っている大人になって気付きました。歌詞には厚木の人や景色がいっぱい出てきます。ジャズライブやライブハウス、飲食店でいろいろな人に出会い、新しい文化にたくさん触れたことも表現につながっています。

市長 今回、井上さんには市制70周年のキャッチフレーズ「未来へ一歩 つながるあつぎ 70年」をテーマにした作品を描いていただきました。

井上 作品は白黒とカラフルな絵を合わせて、一つになっています。白黒の方に今の時代、暗いニュースや辛いこと、ネガティブなことがある中でも力強く生きていこうという思いを込めています。カラフルな方は生き生きとした、子どもたちだけでなく大人たちも楽しむ、明るい未来を、希望を込めて描きました。

市長 井上さんが、音楽が流れる部屋で無から絵を描く姿を見て感動しました。

ナカムラ 作品の黒が本当に印象的です。「黒って怖い」「苦手だな」と思っている子も、純さんの作品に触れたら、「黒って楽しいんだ」と世界が広がるのかなと感じています。

井上 ありがとうございます。
市長 作品は2月3日から市役所本庁舎に飾らせていただきます。ナカムラさんは、シティアロモーションの一環でオリジナルの楽曲「MICHIKUSA」を手がけられました。

ナカムラ 私はずっと厚木に住んでいます。仕事で全国を回って厚木を客観的に見て、ふるさとのことを話したような歌詞ができました。自然もあり、暮らしやすいこのまちで、子どもたちが失敗したり、怪我した

市長 文化やアートの持つ力は、何だと思いませんか。
ナカムラ 一人一人のネガティブなところや、すてきな部分を広げられることだと思います。私も思いを言葉にするのがすごく苦手です。だから歌詞を書いて音楽を作れているのですが、自分のネガティブな部分を楽しいものに変えられてすごく救われました。純さんの作品みたいに、見た人の感覚を広げてくれるのが魅力だと思います。



市制70周年をテーマにした作品は2月3日から市役所本庁舎に展示



厚木市長
山口 貴裕

り、けんかしたりと、たくさん遠回り、道草、寄り道しながら大人になり、そういった経験がすてきな宝物になったらいいなと感じています。
市長 歌詞に246号線や田んぼも出てきて厚木を感じました。「大人は自分に旅をさせよ、己耕せ、夢に泳げ」というフレーズが印象的です。
井上 「大人が変わってほしい」という思いが強く歌詞に出ていて、お尻をたたかれる気持ちになりました。

市長 市内で撮影した映像にナカムラさんの楽曲を乗せた動画を、市の公式YouTubeなどで公開します。多くの皆様に聴いていただきたいです。

遊びから芸術が生まれる
市長 文化やアートの持つ力は、何だと思いませんか。
ナカムラ 一人一人のネガティブなところや、すてきな部分を広げられることだと思います。私も思いを言葉にするのがすごく苦手です。だから歌詞を書いて音楽を作れているのですが、自分のネガティブな部分を楽しいものに変えられてすごく救われました。純さんの作品みたいに、見た人の感覚を広げてくれるのが魅力だと思います。

市長 井上さんは文化や芸術に多くの方が親しみ、まちが盛り上がるには何が必要だと考えていますか。
井上 まず、余裕です。余裕が

これから
市長 市制70周年に合わせて、厚木を舞台とした映画の製作など多くのイベントを開催予定です。皆さんの誇りとあつぎ愛を育む1年にしたいです。お二人はどんな年にしたいですか。

ナカムラ 9月のライブでこの会場をいっぱいにしたいです。その日だけは厚木を引っ張れるようなライブにできたらと思います。あと、厚木で生まれた曲を世界に出せるように頑張りたいです。

井上 最近、時間がたつのがものすごく早く感じます。あつという間に過ぎていく日々の中で、毎日を大事に、一生懸命生きたいなと思います。健康で、楽しく家族と生きられることが大事だと感じています。

市長 厚木を文化芸術の聖地にしていく思いが、一層強くなりました。今後もお力添えいただきたいです。本日はありがとうございました。

市公式YouTubeで公開中 子育てプロモーション動画

NakamuraEmiさんが厚木をイメージして作った「MICHIKUSA」に、市内で撮影した映像を合わせた動画を市公式YouTubeで公開しています。



詳細はこちら

抽選でプレゼント サイン入り色紙

井上純さんとNakamuraEmiさんの直筆サインをプレゼントします。

《対象》市内在住の方各5人
市公式LINEの応募フォームまたはハガキに希望する色紙と〒住所、氏名、電話番号を書き、1月31日(必着)までに〒243-8511広報シティアロモーション課☎225-2040へ。抽選。

※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます(2月末発送予定)。



申し込みはこちら



昨年12月には中国で初の海外ライブ

4回の記念フェアに約4600人が来場

厚木市民朝市が11月17日で開設50周年



節目を祝いテープカットとくす玉割りを実施

市民朝市が、開設50周年を迎えました。地場産の採れたて野菜や加工品に加え、友好都市の特産品やジビエ肉の加工食品、石川県輪島朝市と三崎朝市の特別出店などのフェアが実施され、大勢の買い物客でにぎわいました。

文化会館駐車場毎週日曜の6時から開かれている厚木市民朝市が、開設50周年を迎えました。地場産の採れたて野菜や加工品に加え、友好都市の特産品やジビエ肉の加工食品、石川県輪島朝市と三崎朝市の特別出店などのフェアが実施され、大勢の買い物客でにぎわいました。

市民朝市推進委員会出店者組合長の伊藤洋文さん(66・温水)は「多くの方に支えられて50周年を迎えられた。これからも市民に愛される朝市を続けていきたい」と力を込めました。家族で訪れた服部健太さん(43・戸室)は「採れたてで新鮮な野菜などが買えるのが魅力。歴史ある朝市をこれからも楽しみにしている」と笑顔で話しました。

小・中学生11人を表彰

あつぎ市民交流プラザで和田傳文学賞の授賞式を実施

和伝氏(和伝)の遺志による寄付金で創設した基金を基に教育委員会が実施し38回目。作文や詩、短歌など140作品を対象に審査を実施しました。当日、大賞の3人が作品を朗読すると、会場から大きな拍手が送られました。「ダムがなくなぐ思いと未来」を朗読した松本蒼生さん(玉川中3年)は「受賞を知ったときはとても驚いた。作文を通して、多くの人にダムの歴史や思いを知ってもらえたらうれしい」と話しました。



和田傳大賞を受賞した皆さんを表彰

和伝氏(和伝)の遺志による寄付金で創設した基金を基に教育委員会が実施し38回目。作文や詩、短歌など140作品を対象に審査を実施しました。当日、大賞の3人が作品を朗読すると、会場から大きな拍手が送られました。「ダムがなくなぐ思いと未来」を朗読した松本蒼生さん(玉川中3年)は「受賞を知ったときはとても驚いた。作文を通して、多くの人にダムの歴史や思いを知ってもらえたらうれしい」と話しました。



和田傳大賞を受賞した皆さんを表彰

横断歩道を効率的に渡り車の流れを円滑化

厚木高校の生徒と市が共同で交通混雑緩和の実証実験

国道246号線・水引交差点での交通混雑解消に向け、市と県立厚木高校が実証実験を実施しました。生徒8人が10日間交差点に立ち、歩行者がスムーズに横断歩道を渡る方法を検証しました。実験はスーパーサイエンススクールに指定される学校の、主体的な探求活動の一環で実施。昨年5月から週2回、交差点の様子を調査・研究した結果、横断歩道を渡る歩行者の速度向上が交通混雑の緩和につながるとの仮説に至りました。実証実験では、生徒が2グループに分かれ、「左側通行にご協力をお願いします」と声をかけ、歩行者を誘導。歩行者数や、横断歩道を渡り切る時間を調査しました。



横断歩道で左側通行を呼びかける生徒たち

実験で得られたデータは学校が解析し、3月の成果発表会で公表します。



若者と市長が意見交換

「あつぎタウンミーティング」を開催

市内の大学生10人があつぎ市民交流プラザに集い、「若者が考える魅力あるまち」をテーマに山口市長らと語り合いました。あつぎタウンミーティングは、幅広く市民の声を聴き、誇りや憧れを持てる厚木をつくるために開催しています。この日はテーマごとに二つのグループに分かれ意見交換し、山口市長が「厚木の強みである自然を生かしてどのように人に集ってもらうかが課題。若い目線での意見が聞きたい」と質問すると「自然を生かした有名な観光スポットを作ると良いのでは」などと、活発に意見が出されました。市では今年度、自治会長や農業関係団体とのタウンミーティングを実施。今後は、出産を控える父母なども意見交換し、市政運営に生かしていきます。



和やかに意見を交わす参加者たち



厚木・秦野・伊勢原市、愛川町、清川村の5市町村が観光振興で連携している「県央やまなみ地域」の魅力を、毎月順番で紹介していきます。紙面では伝えきれない5市町村の観光にまつわるコラムを、ニュースサイトでも紹介します。

第8回 旬を迎える厚木のイチゴ

厚木の名産の一つに、イチゴがあります。冬から春にかけて旬を迎えるイチゴは、厚木にある農園で、摘みたての新鮮な味を楽しめます。大人から子どもまで人気の味覚を届けようと、シーズンを前に農園関係者は汗を流しています。



真っ赤な完熟のイチゴが味わえる

ニュースサイトで詳しく紹介しています▶

商業観光課 ☎225-2820



PR動画「おいしいね 厚木の給食」

地域プロモーションアワード2024
ふるさと動画大賞
戸高良彦賞を受賞



全国から104作品の応募があり、受賞8作品の内、審査委員賞に選ばれました。

【講評(抜粋)】登場人物、世界観ともに演出を感じさせない、素直なシティプロモーションだと感じました。引き算の演出が、光っていると思います。



▲視聴はこちら

広報シティプロモーション課 ☎225-2040

市民の皆様により身近な議会へ



市議会議長 遠藤 浩一

市民の皆様、希望に満ちた輝かしい新春を、お迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、市議会に對しましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年、厚木市議会は議会報告会や中学生議会の開催などを通し、多くの市民の皆様からご意見を頂いてまいりました。本年も二元代表制の一翼を担う議会として、皆様の声をしっかりと受け止め、議会活動の充実や機能強化に努めてまいりますので、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに当たり、市民の皆様にとりまして新しい年が、実り多き年になりますとともに、皆様のご健勝を祈念いたします。と新年のごあいさついたします。

タウンガイド

1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 🗄=講座予約システム (70) =市制70周年記念事業
 愛TV 1/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「あつぎウィンターフェスティバル」

#12月6日撮影
 #厚木公園
 #イルミネーション
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



消防出初め式

1月12日、10時～。荻野運動公園。古式消防保存会のまとい振り込み・はしご乗り、車両分列行進、消防署・団演技や一斉放水など。無料。☑不要。当日7時にサイレンを鳴らします。☎警防課☎223-9368。

春のおもてなしカアップ！ 歓送迎会シーズン売上アップ実践講座

2月4日、14～16時。厚木商工会議所。顧客購買心理を踏まえたディスプレイやギフトの作成方法などの実践型の講座。市内店舗の商業者15人。無料。☑1月6～24日に商業観光課☎225-2840へ。先着順。

市民ふれあいマーケットの出店者募集

家庭で不用になった物を販売する出店者を募集します。
 《日時》3月9日（雨天中止）、9時30分～14時《場所》厚木中央公園《販売内容》日用雑貨や衣料品など（手作り品、食品、動植物は不可）《対象》市内在住の方100組（高校生以下は不可）《出店料》500円。☑往復ハガキに〒住所、

参加者全員の氏名、電話番号、Eメールアドレス、販売品目、自動車の有無（1店舗1台まで）・車種・ナンバーを書き、1月31日（消印有効）までに〒243-8511環境事業課☎225-2793へ。1組1応募。抽選。

今日からできるプラスワン・健康測定会&運動講座

2月20日、14時～15時30分。依知南公民館。健康運動指導士による健康を維持する運動や血管年齢・骨健康度測定会など。市内在住の40歳以上20人。無料。☑1月30日までに健康医療課☎225-2201へ。抽選。📞

第3次教育振興基本計画審議会委員を募集

2026年度から始まる教育振興基本計画に定める基本目標・方針などを審議・検討する委員を募集します。
 《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議（年9回程度）に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方1人《任期》2月～26年3月《報酬》日額7800円（交通費含む）。☑教育総務課や公民館、市

EXITりんたろー。さんと遊ぼう！学ぼう！楽しもう！

サッカー教室&講演会

無料



テレビなどで活動するお笑いタレント・EXITりんたろー。さんがサッカーを通じてスポーツの魅力や楽しさなどを伝えます。

日時 2月16日 ①10時～②14時～(各回120分)

場所 荻野運動公園

対象 ①教室=市内在住在学または市内のスポーツ団体に所属する小学生
 前半=低学年30人、後半=高学年50人
 ②講演会=市内在住在勤在学の方300人

プロフィール

1986年生まれ。小学2年生からサッカーを始め、プロを目指して14年間打ち込む。現在はテレビやYouTubeなどで活動中

☑1月19日までに市HPから申し込み。抽選。詳細は市HPに掲載。



詳細はこちら

☎スポーツ魅力創造課☎225-2531

HPにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで1月31日(必着)までに〒243-8511教育総務課☎225-2663・㊚224-5280・✉7800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考・面接あり。

科学指導員(会計年度任用職員)を募集

プラネタリウム投影や施設管理業務などをする指導員を募集します。
 《対象》科学の普及に熱意のある18歳以上《勤務先》神奈川工科大学厚木市子ども科学館《任期》4月～(最長1年。更新あり)《勤務時間》週2日以上(シフト制)、9時～17時15分(7時間15分)《報酬》時給1200円程度(条件付きで通勤手当あり)。☑市HPにある申請書と小論文を、1月4～14日に直接、子ども科学館へ☎221-4152へ。書類選考後、1月30日に面接あり。

Atsugi Free Wi-Fiのサービス提供エリアを追加

1月5日から文化会館でも利用できます。Eメールアドレスを登録すると、60分間無料で利用できます。☎DX推進課☎225-2447。



《パブリックコメント》
 人権施策推進指針の改定
 《閲覧期間》1月6日～2月5日《閲覧場所》市民協働推進課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、あつぎセーフティステーション番屋、市HP《応募方法》閲覧場所にある用紙に掲載。☎市民協働推進課☎225-2215。

厚木市 市民参加

検索

テーマは「君とともに、らしさの先へ」

はたちのつどい

2025年、市内では2212人が20歳の節目を迎えます。皆さんの輝く未来を祝い「はたちのつどい」を開催します。

☎青少年課☎225-2580

《日時》1月13日
 ①10時30分～②14時30分～(各回60分)

《場所》文化会館

《内容》式典や抽選会、ビデオレターなど

《対象》市内在住・出身の2004年4月2日～05年4月1日生まれの方(対象者には12月上旬に招待状を郵送。詳細は市HPに掲載)



詳しくはこちら

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中
 厚木市 インターネットモニター 検索
 ☎広報シティプロモーション課☎225-2043

12月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆どんな方とも一緒に同じ時間を楽しむ機会づくりが何より大切だと思った/40歳女性 ◆災害時の相互支援の輪を広げていくのは大切/60代男性 ◆大きな変化ではなく面影はそのままに和室をコルク張りにするなど現代的なりニューアルでいいと思う/30代女性 ◆障害があってもなくても何にでもチャレンジし生き生きと楽しそうな姿は素晴らしい/60代男性 ◆市制70周年は盛大にお祝いしたい/50代女性

編集後記

休日にひたすら絵を描いたり、カラオケで歌ったりして過ごすことがあります。絵を描くのも歌うのも好きですが誰かと一緒に、とは思いません。井上純さんとNakamuraEmiさんは、作品に強い思いやメッセージを込めていると話していました。私は自分をさらけ出したものを誰かに見られるのがまだ怖いのだと思います。怖いを超えた先に文化芸術の別の面白さがあるのかもしれない/野口

2月1日は市制70周年記念日

記念日の2月1日に合わせ、記念事業を開催します。みんなで
お祝いしませんか。 企画政策課 ☎225-2450

記念サイト
はこちら



書家・金澤翔子さん席上揮毫・ 記念映画上映会



席上揮毫のパフォーマンスと、ドキュメンタリー
映画を上映します。

日時 2月1日 14~16時

会場 文化会館

内容 席上揮毫、映画上映「共に生きる 書家金澤翔子」

費用 無料 申込不要。

参加者全員に
市制70周年記念グッズをプレゼント

プロフィール

金澤翔子さん(写真左)。東京都出身。5歳の時、書家の母から教わり書を始める。現在は国内外で個展などを開き活躍。代表作「共に生きる」を合言葉に、障がいがある人や被災地の支援などでも活動。

冠事業を記念サイトで紹介

大会やイベントなどの名称に市制70周年の冠を付ける事業を募集します。事業は記念サイトで周知します。

《対象》2月1日~2026年1月31日に実施する事業
※詳細は記念サイトに掲載

《冠の例》「厚木市制70周年記念 《事業名》」
「《事業名》 厚木市制70周年記念事業
未来へ一歩 つながる あつぎ70年」など

申請書と事業資料を直接または郵送、Eメールで〒243-8511企画政策課・✉1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

募集

記念事業の企画

補助金あり

市制70周年を記念して企画した事業に補助金を交付します。
※2025年度事業は議会の議決後に確定

《対象》2月1日~2026年1月31日に実施する事業
※詳細は記念サイトに掲載

《事業の種類と補助額》

- ①各地区のイベントなど(経費の3分の2、上限5万円)
- ②市民対象の事業(経費の2分の1、上限10万円)
- ③全国・県大会など(経費の2分の1、上限30万円)
- 申請書や実施要領などを直接または郵送で実施日の30日前までに〒243-8511企画政策課へ。審査あり。

自然歳時記

●ルリビタキ● ヒタキ科

ルリビタキは全長14センチほど。雄は全体が明るい瑠璃色で名の由来となっている。冬場に山地から低地で見られる冬の鳥。「ヒッ、ヒッヒッ、クワツクワツ」と鳴く／七沢の谷戸で見つけた。 写真・文／吉田文雄



冬枯れで木々は葉を落とし、見通しの良くなった谷戸に来た。人懐っこい、頭部が銀髪のジョウビタキに出合い気を良くして歩いていると、瑠璃色のルリビタキを見かけた。

ルリビタキは、雄は上面が瑠璃色で脇はオレンジ色、雌はオリーブ色で尾羽が青い。特に雄は幸せを運ぶ

青い鳥といわれるほど美しく、心が幸せになるから不思議だ。

亜高山帯で繁殖し、冬は低地の雑木林で過ごして季節ごとに移動するため「漂鳥」と呼んでいる。最近鳥が減少したとよく聞く。鳥たちの住む環境を、子どもたちの未来のために残してあげたい。

厚木市の人口
(12月1日現在)



世帯数 10万6315世帯 (前月比103世帯増)



人口 22万3637人 (前月比30人増) 男11万5266人・女10万8371人